

<第56回通常総会アピール>

**激しく急速に変化する時代だからこそ、
生協の理念・協同組合の定義・価値・原則を大切にして組合員・地域の願いにこたえましょう！**

2008年の世相をあらわす漢字が「変」であったように、いま私たちの暮らしをめぐる状況に大きく激しい変化が生じています。

昨年の前半は原油・穀物などの価格高騰により、食料品・燃料などの必需品の値上げラッシュで、消費者・農漁業者・中小自営業者のくらしと営業に困難が重なりました。後半はアメリカ発の金融危機を契機に、世界をまきこむ同時不況に突入し、自動車産業はじめ輸出に過度に依存してきた日本経済は景気持続基調から一転、「戦後最悪・最大の経済危機」といわれる局面に入りました。

これまで「構造改革」の名のもとに、雇用制度や医療・年金・福祉の全面にわたる社会保障制度の改悪がすすめられてきたなかでの景気後退は、国民生活にきわめて厳しく深刻な状態をもたらしています。ワーキングプアと失業が大量に発生し、「格差と貧困」問題はますます重大化して、多くの国民の生存したいを脅かす事態が進行しています。

このようななか、一方で、弱肉強食の市場競争をつうじて豊かさを獲得しようとするのではなく、人間と地球環境・地域社会の「共生」をもとめ、利益追求を至上目的としない実践がいろいろな分野に広がっています。生活協同組合も、そのような社会的経済組織のひとつであり、資本主義が生みだす社会的な矛盾・ゆがみ・ひずみにたいし、みずからの力で新しい未来をつくりだそうという理念をもって誕生・成長してきました。

生協は今日、全国で2400万人の組合員が参加する日本最大の消費者組織として成長・発展しています。一人ひとりが平和で幸せな生活を築くことのできる社会の実現のために、生協が果たしてきている役割は大きなものがあります。消費者運動と世論の高まりのなかで、このたび、消費者行政を一元化するための法律・組織の整備・充実にむけて、あらたな一歩がふみだされました。食の安全・安心の課題をはじめ、医療や社会保障、環境などの分野においても、消費者権利が十分に確保されなければなりません。

本日、京都府生活協同組合連合会は第56回総会を開催し、京都における生協への加入組合員数が66万9500人を数え、地域・学園・職域・医療・共済などの多くの分野で、旺盛な事業と活動をすすめていることをたしかめあいました。

世界中の国ぐにが国境を越えて激しく急速に変化していく時代だからこそ、私たちは生協の理念・協同組合の定義・価値・原則を大切にしたい事業・活動・組織運営をすすめて、組合員の願いにこたえていかなければなりません。また、地域社会の一員として、さまざまな団体・個人との連帯の輪を広げる取組みをつよめ、「人間らしいくらしの創造と持続可能な社会の実現」にむけて、組合員・役職員がともに生協組織がそなえている力を発揮していこうではありませんか。

以上